

様式(細則 6-2)

令和6年10月24日

浜田市議会議員 様

議員名 牛 尾 昭

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

知れば知るほど美味になる早物の秘密～(ストーリーを加価値にする努力)

2. 受講の目的 (市政との関連など)

農業の6次産業化に向けた考察

3. 期間 (移動日を含む)

令和6年10月10日(木) ～ 令和6年10月10日(木)

4. 経費

1,000 円

(経費内訳 受講料 1,000 円、旅費 円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

農業振興に対する新たな価値観の創造。

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)



知れば知るほど美味しくなる果物の秘密 ～ストーリーを付加価値にする農業～

日 時：令和6年10月10日 19:00～21:00（オンライン）

主 催：スマート・テロワール協会

講 師：竹下大学 氏（育種家）、秋竹新伍 氏（ミカン農家）

進 行：藻谷浩介 氏_日本総研上席研究員

●竹下大学 氏：新書（おいしさは歴史を変えた）（日本のくだものはすごい） ～ストーリーを付加価値にする農業へ～

- 1 果物の美味しさについての素朴な疑問
- 2 果物が置かれた状況
- 3 歴史物語で高められる価値
- 4 一般消費者に何がアピールするか

➤1 果物の美味しさについての素朴な疑問

- ①果物の美味しさは誰がどうやって決めているものなのか。
- ②果物は今、どのくらいまできているのか？

まずい ①—②— ③— ④— ⑤ 極限のうまい

* 前提条件を変える時がきている。

美味しさ一別の指標を作って取り組む。（新しい要素）

- ①安さ ② 鮮度 ③食べやすさ ④ 栄養機能性 ⑤歴史的史実

* 糖度計が果物をつまらなくした。

（機能的価値）—（情緒的価値）

➤2 果物が置かれた状況

1975年消費量（193g）、2022年（22,5g）

* 20代の消費量が激減している。

- ①普段の買い物で重視するもの。
- ②居住地の特産物。
- ③食に対する感謝の気持ちを感じる時。

—新市場開拓 — 新商品開発の余地— 。

—プロだからこそ、とらわれがちな固定観念—

—徳川家康が植えた紀州ミカン—

—上杉謙信の川中島白桃—

●秋竹新伍 氏（80 歳）

- ・初めは 7 件の農家・・・昭和 54 年、草和共選組合設立
- ・草和果樹園 農業法人 25 年目、資本金 9,997 万円
- ・売上 13 億 6 千万円、社員 100 名（内 40%が 20 代女性）
全体で 70%が女性、直営 9ha 出荷 500t、加工 1,200t
- ・現在、世代交代の事業承継を果たす。農業の会社に若者・女性が一杯
女性の活躍が会社を伸ばす。

* 「味へのこだわり」

出来たみかんじゃダメーICT で作ったみかん

* 2 次産業部門

農産加工へー6 次産業化

「特産のみかんに付加価値を」

①ジュース ②ゼリー ③ジャム ④コンポート ⑤調味料 ⑥アイス等
自社搾汁工場直営店（とれとれ市場店）開店。

① 地域貢献・地域活性化への取組

② 雇用の創出一年末に 70 人臨時採用

③ ディスカバー村の宝大学サミット

④ 経済産業省から「地域未来牽引企業」の認定。

* 2004 年まで 1 kg 7 円のみかんが、現在 1 kg 50 円

みかんを余すことなく使う

果実はジュース、袋はスムージー、皮（陳皮）は漢方薬

現在カフェの建設中

考察

竹下氏の育種家としての視点は鋭い。糖度計による美味しさ表現だけでいいのか？ ストーリーを付加価値として、美味しさの価値表現を売りにするやり方は斬新である。現在、巻き網漁船のどんちっちあじが、油脂度がまちまちで売りにくくて困っている。油脂計の売り方ではなく、ストーリーを付加価値にした売り方はどうか。研究の価値がある。

秋竹さんの取組は、みかん作りに ICT を使い革命をもたらした。

単価が約 7 倍になり、雇用者は 100 人でうち女性が 40%である。女性の感性をいかした新商品開発も進んでいる。見習うべきである。

以上報告します。

牛尾 昭